

特集

大地震への備えはできていますか?

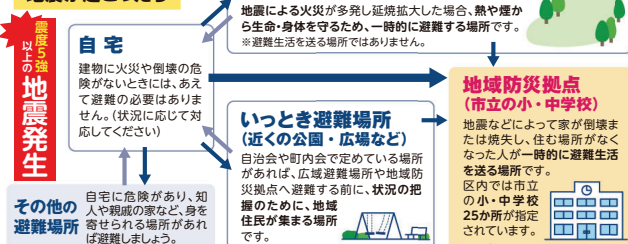
いつ発生するかわからない大地震。今のうちに避難場所や避難行動を確認しておきましょう。また、もしもけがをしてしまったときのために、医療機関や応急手当についても知っておきましょう。

地域防災拠点を確認しよう

地域防災拠点は、市内で震度5強以上の地震を観測した際に開設されます。

発災時、地域防災拠点を運営するのは地域のひとと避難してきた皆さんです。ご自分の地域防災拠点を確認しておきましょう。また、地域の防災訓練では、地域防災拠点の運営訓練も行っています。ぜひ参加して、いざというときに速やかに動ける練習をしておきましょう。

地震が起こったら



自分の避難先はどこ?



みんなで運営する避難所



「在宅避難」のススメ

発災時、自宅とその周辺の安全が確認できれば、在宅避難も選択肢のひとつです。

住み慣れた家での生活はプライバシーが守られ、感染症のリスクも減らせます。自宅で被災生活を送るために、日頃から生活必需品を最低3日分備えておきましょう。

※在宅避難者も、地域防災拠点で情報や物資が得られます。

在宅避難について詳しくはこちら▶



日頃からの備えや発災時の対応などを掲載している防災啓発冊子を区役所(6階66番)で配布しています。

ウェブページでも掲載しています。ぜひ一度ご確認ください。

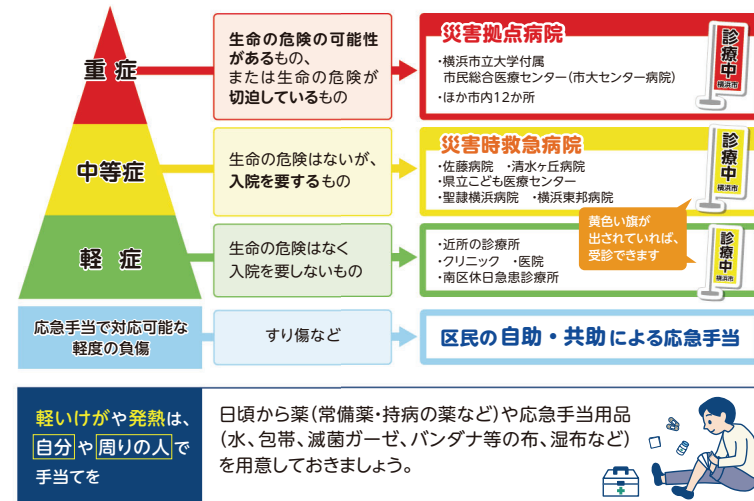


みなみ防災ガイド▶

図 防災担当 ☎ 341-1225 ☎ 241-1151

災害時の医療について知っておこう

災害時には医療機関に多くの負傷者等が殺到することが予想されるため、医療機関は緊急度・重症度に応じて分担して診療します。災害時に医療機関で診療や治療を受ける必要がある場合には、緊急度・症状の重さに応じた医療機関へ行きましょう。



掲出時の様子

災害時に薬が必要なとき
薬を提供できる薬局は「開局中」の黄色い旗を出します。



区における災害医療体制の詳細はこちら▶

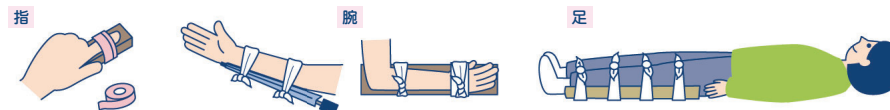
図 事業企画担当 ☎ 341-1184 ☎ 341-1189

応急手当について知っておこう

消防署は、発災時に消火・救助を優先的にを行います。このため、救急車がすぐには来ない可能性があり、住民がお互いに協力して傷病者を手当てする場合があります。いざというときのために応急手当の方法を学んでおきましょう。

骨折・捻挫の場合

折れた骨を支える物(傘、新聞紙、ダンボールなど)で動かないように固定します。



三角巾(スカーフ、風呂敷、大判ハンカチなど)で患部を動かないように固定すると痛みを最小限にすることができます。



出血の場合

出血時の応急手当・搬送方法は、下の動画でチェック!



家庭防災員研修

南消防署では、「自らの身は自らで守る」という自助から始まり、共助の重要性について理解を深め、地域における防災活動の担い手としても活躍することを目的とした家庭防災員研修を行っています。応急手当・搬送方法のほか、初期消火器具の使い方、仮設トイレの設置方法などを学べます。

研修の日程や参加方法など詳しくはこちら



図 南消防署予防係 ☎ ☎ 253-0119